
『君がこっちで私は？』

セウル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『君がこつちで私は？』

【Nコード】

N1793Q

【作者名】

セウル

【あらすじ】

高校生になったあの日。

私は、貴女に出会いました…………。

特に光の差すことが無かった私の光。

二人の…………思い出の話。

（前書き）

薔薇水晶と雪華綺晶のはなし。

特に注意はありませんが、二人は人形でもアストラル体でもなく普通の人間です。

高校三年、私と親友の薔薇水晶……。

（……………）

彼女が聞いてきた。

私は首を振って「なんでもない。」そう答えた。
……………。

（私達の事、思い返してたんだ。）

私はそう言い、ふっと笑う。

（確か……………）

私立ティア学園

なんでそんな変な名前かはともかく、
かなり高名な所だった。

偏差値は80オーバー

測定不能だとか。

私は、力試しで受けたら何故か合格。
もしかしたらそれは……………

偶然である必然だったのかもしれない。

そして、クラスでそれは起きた

（あつ、久しぶり！）

急に声をかけられ尻餅をつく私。

声の主は驚く

（あつ、ごめんばらし……………驚いた？）

その言葉に耳を疑う

私は雪華綺晶。ばらしーなんてあだ名では……………。

（私は雪華綺晶です。）

私はまじめに言うが、

冗談だと思われたのか、「はいはい……」

そう、流され、教室に連れて行かれた。

私のクラスだ。。。

この学校に入学して初めてのクラスinが、

まさか、人違いで連行とは……。

なんとも情けない話だ。

私はこっちに引越して入学のため

知り合いは一人もない。

（あっ、ばらしーお久）

一気にクラスの注目の的

なぜ？

(やっぱ、可愛いよ、流石モデル)

はい？

意味が
・
・
・
・
・
・
○

突然言われた言葉、意味不明。

モデル？そんな人前に出ること出来るわけが無い。

(いや……あの……)

そこで、

彼女はきた。

(おはよう)

静まる教室。

そして・・・

(ええええええええええ!!!!?)

上がる数々の悲鳴。

それが、私達の出会い。
混乱した貴女。
私も同じく……。

初めての言葉、
それは
同時に言った。

（あ。私がいる）

（あ……薔薇水晶です。）

（私……雪華綺晶です。）

互いに落ち着いたところで挨拶する。

あゝまるで、鏡。

私と彼女の出会いだった。

それから二年間とくに何も無く……。
モデルの撮影に見学行くと連れて行かれ……。
あわやロケ地まで……。
なんて平和な事件が起こるくらいで……。
でも、あるときそれは起きた。

二人で買い物に出かけたときだった。
（きらきーは口数増やすべきだよ？）

彼女の言葉に、微笑む。

もちろん、

私が入前が苦手なことを彼女は知っている……。

（あはは、考えてみる）

私はそう言っで買い物をした。

その帰りだった。

またね？

と二人で挨拶を交わし、別れた。

しかし、

（僕のものにならないなら死んじゃえ！）

突然の怒号。

響き渡る悲鳴。

そして・・・・・・・・

取り押さえられる、私の名前を呼ぶ男。

そして・・・・・・・・

血を流して倒れている・・・・・・・・私の親友。

え・・・・・・・・？

すぐ理解した・・・・・・・・それは・・・・・・・・。

（どう・・・・ですか？）

私は医者に見ねる。

不安で・・・・・・・・なんとなく結果が感じられて・・・・・・・・。
でも、医者が違うといえば・・・・・・・・

結果は・・・・予想通り・・・・・・・・。

嫌な予測が的中した。

だからこそ・・・・・・・・

私は・・・・・・・・。

（お母さん）

私は呼ぶ、彼女の母を。

驚く両親。

薔薇水晶は死んだのだ。

熱狂的なファンの逆上により・・・・・・・・。

（これでいいのかな？ごめんね？）

私は「薔薇水晶」と書かれた墓に聞く。
もちろん・・・答えなど返ってこない。
消えてしまった命。

（これから私は雪華綺晶。ごめんね？きらきー）
彼女は涙を流す。

あの時刺された少女は薔薇水晶ではなく・・・
瓜二つの赤の他人、親友というだけの
雪華綺晶だった。

ただ・・・にいて、それだけで・・・
私のせいで消えた命。
だから、

本来消えるべき命は消え、私は生きるべき命となる。

（雪華綺晶！いくわよ！）

お母さんが呼んでる。

（またね・・・薔薇水晶。ごめんね？きらきー）
私はそう言いおき、立ち去った。

（後書き）

どうでしたか？

楽しめたなら、嬉しい限りです。

感想等頂けると、ありがたいです。

読んでくださり有難う御座いました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1793q/>

『君がこっちで私は？』

2011年1月19日09時49分発行